

# りんご生育情報(6月号)

【発行】宮城県登米農業改良普及センター

電話 0220-22-6127

令和3年6月15日発行

HP <https://www.pref.miyagi.jp/site/tmnokai/>

普及センターのホームページでは、過去の技術情報も掲載しています。お手持ちのスマートフォンなどで右のQRコードを読み取るとホームページへ移動できますので、ご利用ください。



## 1. 果実肥大状況

6月10日の「ふじ」果実肥大調査結果は表1のとおりです。4月の凍霜害により受粉自体に影響を受けましたが、受粉した果実も、肥大がやや緩やかとなっています。

表1 果実肥大調査結果(単位 mm)

	本年 (東和)	平年値	平年比
タテ径	27.1	28.7	94.4
ヨコ径	25.2	26.2	96.1

## 2. 病害虫の発生状況

宮城県病害虫防除所の発生予報(5月27日発行)は表2のとおりで、斑点落葉病の発生に注意が必要です。斑点落葉病は、梅雨に入り葉や果実の濡れた時間が長くなると発生が拡大する恐れがありますので、今後の発生に注意し、散布間隔が開きすぎないように農薬散布を実施してください。

ハダニ類は、ほ場をよく確認し1葉あたり3頭以上寄生している場合には防除を実施してください。**高温少雨条件で一気に増加しますので、防除の際は週間天気予報等に注意するほか、特に農薬のかかりにくい主幹部の葉を主に、よく確認しましょう。**

果樹カメムシ類については、園地内をこまめに見回り早期発見に努めるとともに、発生の多い園地では速やかに薬剤防除を実施してください。

表2 宮城県内りんごの病害虫発生予報  
(宮城県病害虫防除所, 5/27 発行)

病害虫名	発生量
斑点落葉病	やや多
モモシンクイガ	平年並
ダニ類	平年並

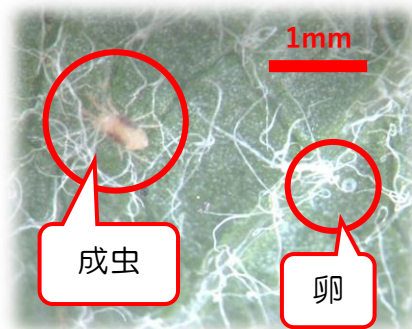
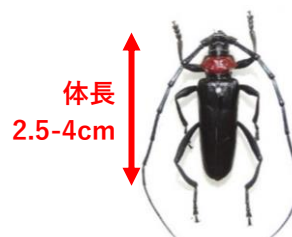


写真 ナミハダニの成虫と卵  
(管内ほ場の被害葉)

### △特定外来生物「クビアカツヤカミキリ」について(注意喚起)

日本では北関東から四国にかけて発生が確認されている特定外来生物で、**バラ科果樹等の樹木の内部を食害**します。これまで宮城県内での発生報告はありませんが、もし樹園地で発見したら、普及センターへご一報ください。

また、特定外来生物は生きたまま運搬することが禁じられています。成虫を発見したら殺処分してください。



### 3. 今後の管理について



#### (1) 摘果

4月中旬及び下旬の降霜の影響で、管内各地で着果不良やさび果が確認されています。摘果の際には健全な果実を残し、表3の適正な着果程度に合わせて摘果しましょう。摘果は、樹勢など生育状況に応じて加減してください。

表3 標準的な着果程度

品種	摘果の強さ
紅玉	3頂芽に1果
つがる, ジョナゴールド	3.5頂芽に1果
ふじ, 王林, シナノゴールド, シナノスイート, ぐんま名月 など	4頂芽に1果

#### (2) 新梢管理 (徒長枝)

時期：樹勢を落ち着かせることを目的とする場合は、貯蔵養分\*を使い切る6月下旬から7月初めがよいと考えられます。皆さんが現在実施している摘果と同時に骨格枝や主枝の背面から発生している徒長枝を中心に整理し、作業の効率化を図りましょう。

※新梢の生長は、6月ころまでは前年の貯蔵養分によって行われます。

切り方：その後の発生を抑えたいのであれば、基部は残さず短く切ります。

枝を再発生させたい場合や側枝がはげ上がりやすい品種（「つがる」「ジョナゴールド」）では、基部を数mm程度残し、そこから新梢が再発生しやすいようにしておきます。

#### (3) わい性台木樹の樹勢対策

##### ▶樹勢が強い場合

冬期せん定は間引きを主体に、夏期せん定では余分な枝葉を取り去ることで樹勢を落ち着かせることができます。夏期せん定の時期は8月下旬～9月上旬とします。

接ぎ木部分が土中に埋まり、穂品種からの自根が発生している場合は切除しましょう。

##### ▶樹勢が弱い場合

地上部の台木が長すぎる場合は樹勢が弱くなるので、新梢の伸びが劣り樹勢が弱っている場合は、穂品種から自根が出ない程度に盛り土を行い、発根を促しましょう。

参考：「りんご生産指導要項 2018-2019」（公益財団法人青森県りんご協会）  
「果実日本 6月号 2020 vol.75」（日本園芸農業協同組合連合会）

☆ 4月1日から6月30日は「春の農作業安全運動」期間です。余裕をもった作業で農作業事故を防ぎましょう。

☆ 6月から8月は「農薬危被害防止運動」期間です。農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。